# 足尾銅山を世界遺産へ

## 世界遺産国内暫定一覧表への追加記載を目指して

9月号では、世界遺産登録推進検討委員会の開催結果と、足尾銅山の価値証明を図る事業をお知らせしました。今回は、昨年10月に開催したシンポジウムと、平成23年度の世界遺産登録推進事業の概要についてお知らせします。

### 世界遺産登録推進シンポジウム

**◀産業遺産見学会**

**見学地…本山製錬所（古河機械金属株式会社足尾事業所）**

シンポジウムの一環として開催した産業遺産見学会には、市内外から60名が参加し、所有者である古河機械金属の協力の下、本山製錬所を見学しました。

本山製錬所は、銅産出量の増加に対応するため、明治17年に直利橋製錬分工場として開設されました。当時の先端技術が導入され、生産量が飛躍的に増加しましたが、同時に亜硫酸ガスの発生による煙害問題も発生しました。その後、煙害克服のためのさまざまな技術改良が続けられ、昭和31年にオートクンプ社（フィンランド）の自溶製錬法を導入後、独自の改良を行って公害防除技術が確立されたといわれています。昭和40年代以降、古河式自溶製錬法として、国内はもとより海外の製錬所にも導入されました。昭和63年には事実上の操業が停止されましたが、現在も関係者以外は立ち入ることができない鉱山施設です。

本山製錬所見学の様子

今回、初となる特別公開では、多くの申込み・問合せをいただき、参加者にも非常に好評でした。古河機械金属では、平成24年度は2回程度の特別公開を検討しています。

**◀基調講演**

**講師…岡田昌彰氏（近畿大学理工学部社会環境工学科准教授）**

**演題…産業遺産の利活用～世界の事例と足尾の可能性～**

**講演の内容…産業空間には、鉄道アクセスなど最初から組み込まれたアメニティ（社会環境）があり、普遍的な性格を持っている。欧米では、それらを生かした産業遺産の活用事例が多くあり、国内でも川崎などで、工場夜景を生かした取り組みが行われている。工場跡など見慣れた景色でも、デザインすることにより視座（見方）が変わり、人々の関心を高めることになる。足尾にはその可能性があり、新たなストーリーによる価値づけが必要。**

基調講演の様子

**◀パネルディスカッション**

**市検討委員会副委員長の永井護氏をコーディネーターとするパネルディスカッションを行いました。**

**テーマ…産業遺産の保存・活用と地域づくり**

**◆岡田昌彰氏（近畿大学理工学部社会環境工学科准教授）**

見慣れた産業遺産もアートを取り入れ、場の活性化を図れば見方が変わる。ドイツのルール地方や、アメリカのシアトルなどでは既に取り入れられている。国内でも名古屋の中川運河では、キャナルアートプロジェクトとして実践されている。産業遺産とアートはうまくマッチする。足尾銅山の産業遺産活用のポイントは、わたらせ渓谷鐵道による産業と鉱業のアピールと、日光地域との近接性の活用ではないか。

**◆牧野博明氏（財団法人日本交通公社企画課長・主任研究員）**

20数年前から、産業遺産を地域活性化に活用するための研究に取り組んでいるが、地域や種類、立地などの違いから明確な手法はない。その中で足尾銅山の活用のポイントは、古河市兵衛の人脈を使った他の鉱山との広域連携、観光要素の多い日光市への3～4日の滞在の中に、足尾への小旅行を取り入れることなどが考えられる。

**◆山田功氏（足尾まるごと井戸端会議代表）**

銅山とともに栄えた足尾の文化や歴史を次世代に伝えるため、産業遺産の観光ガイド活動に取り組んでいる。また案内看板の作成やイベント、観光ツアーの企画にも携わっている。昭和48年に足尾銅山が閉山となり、今や銅山の稼動時代を知る人も少なくなってきた。産業の近代化や公害の歴史といった事実を聞き伝えながら、地域づくりを進めていきたい。

**◆永井護氏（市検討委員会副委員長）**

市は、産業遺産の活用策も考えなければならない。保存する立場と、観光や学習として見る立場の視点を取り入れ、他地域の遺産との広域的な連携を図ることも必要である。足尾の地域づくりを進める上で、産業遺産の活用は重要。

### 平成23年度世界遺産登録推進事業の概要

市では、足尾銅山の世界遺産登録を目指し、課題とされる産業遺産の文化財指定と、足尾銅山の世界史的・国際的観点からの価値証明を図る取り組みを継続しています。

文化財指定では、これまでに足尾銅山跡として2件の国史跡指定を受けました。現在は、足尾銅山の中核施設であった製錬所や選鉱所などの保存活用のため、史跡の追加指定に向けて調査、研究を進めています。また、文化財指定を受けた産業遺産の保存・活用では、昨年10月、所有者である古河機械金属の協力により、県指定文化財「旧古河鉱業会社足尾銅山掛水重役役宅」の一般公開が始まりました。

世界史的・国際的観点からの価値証明では、足尾銅山が国内を代表する鉱山であることを証明するため、大学との共同研究事業として、明治期からの足尾銅山の保存史料調査を実施しています。そして、発見した史料を所有者の了承のもと、足尾銅山の解説資料としています。

その中で昨年11月に、日本の産業安全運動の始まりとされる「安全専一」の冊子を復刻しました。明治後期、古河鉱業技師の小田川全之は、銅製錬技術の調査でアメリカを訪れた際、当時提唱されていた「セーフティ・ファースト」運動に感銘を受けました。帰国後、足尾鉱業所長になった小田川は、大正元年に「安全専一」と訳した看板を坑内などに掲げ、従業員の安全運動に取り組みました。そして大正4年には冊子を作成し、全従業員に配布したのです。

なお「安全専一」の復刻版は、専用ホームページ「足尾銅山の世界遺産登録をめざして（http://nikko-ashio.jp/）」に掲載しています。

市では、今後も産業遺産の文化財指定と足尾銅山の価値証明を図る取り組みを続け、足尾銅山の世界遺産登録事業をさらに推進していきます。

**くわしくは**
生涯学習課　世界遺産登録推進室
☎(21)5182